

# 高齢者の外出を伴う人との交流と 「ICT利用時間」「趣味活動」の関連

## Relationship between "time spent using ICT" and "hobby activities" with "interaction with others involving going out" among the elderly

○水野 一成<sup>1</sup>, 近藤 勢津子<sup>1</sup>, 吉良 文夫<sup>1</sup>, 是永 諭<sup>2</sup>  
Kazunari MIZUNO, Setsuko KONDO, Fumio KIRA, Ron KORENAGA

<sup>1</sup>NTTドコモ モバイル社会研究所 NTT DOCOMO, INC. Mobile Society Research Institute  
<sup>2</sup>立教大学社会学部メディア社会学科 RIKKYO UNIVERSITY College of Sociology Department of  
Communication

**Abstract** The purpose of this study is to clarify the relationship between hobby activities involving outings and ICT use. The analysis in this study focused on whether the frequency of face-to-face interactions among seniors increases with the frequency of hobbies and ICT use.

**キーワード** 高齢者, 外出, 趣味, インターネット

### 1. はじめに

本研究は、外出を伴う趣味活動とICT利用の関連について明らかにすることを目的としている。

NTTドコモ モバイル社会研究所では、シニア世代の生活をより豊かにするために「必要とされること」「ICTが貢献し得ること」を検討するため、2015年より本格的な調査を開始した。2023年1月に調査した結果では、60代はスマートフォン（以下、スマホ）の所有が92.1%、70代のスマホ所有は76.2%<sup>[1]</sup>であった。さらに、フィーチャーフォン（従来型のケータイ）、パソコン、タブレットの所有（パソコンとタブレットは家族の所有も含める）を含めると、60代は97.7%、70代も94.2%と多くのシニア層（本研究では60代、70代を対象）がICT機器を所有している。

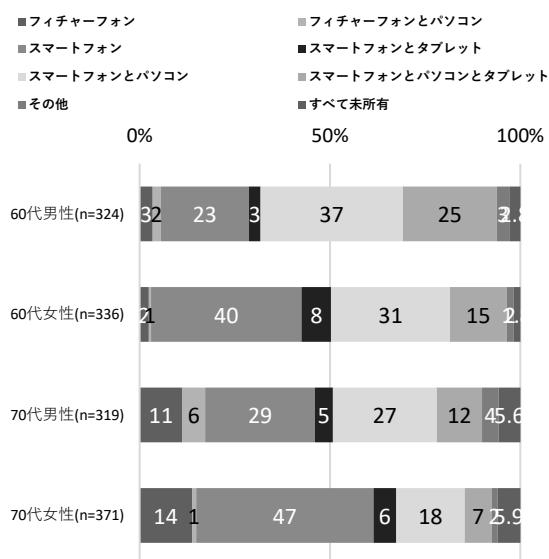
シニアがインターネットをコミュニケーションで利用することにより、健康度自己評価や幸福度が高いことが縦断研究より明らかになっている（桂ら2019）<sup>[2]</sup>。さらに福定ら（2022）は非対面交流中心であっても、主観的健康に、寄与することを示唆している<sup>[3]</sup>。また、スマホやタブレットを利活用することで、情報（疑問を調べるようになった等）に関することを中心に、他にも購買行動（ネットで簡単に購入できる等）やペーパーレス化（カードが減り財布がすっきりした等）などによって生活に変化が生じている<sup>[4]</sup>。このように、シニア層がインターネットを利活用することで得られる効果については、QOLや社会的活動の分野で多く実証されている。

また、岡本ら（2006）が高齢者と趣味の関係について、趣味を含む個人活動が活発な者の特性は、外出時の身体の辛さがない、親しい友人や仲間の数が多い、活動情報をよく知っている、活動情報を教えてくれる人がいる者<sup>[5]</sup>。また、趣味を含む社会活動（ボランティア、スポーツ、シニアクラブ、町内会グループ）の性質と回数の両方が、健康的なライフスタイル行動を指向した社会参加の長期的な影響を決定することを、Abe et al.（2022）が示している<sup>[6]</sup>。上記の報告の通り、趣味の活動を通じて外出頻度が増える、外出の意欲が増すことが明らかになっている。

シニアにとって、外出頻度が増えることについて藤田ら（2004）は外出頻度が低いほど身体・心理・社会的側面での健康水準は低いことを調査を通じて明らかにしている<sup>[7]</sup>。

このように、趣味活動が活発であるとシニアの生活の質の向上につながるが、新型コロナ拡大による影響も報告されている。古田（2022）らは、新型コロナ禍の中の日常で困っていることは、男女ともに「趣味活動ができない」が最も多かった。また、男性に比べて女

図1 ICT機器所有状況



性は、外出頻度が減少したと回答したもの（75.1%）や外出意欲が低下したもの（50.0%）が有意に多かった[8]。

また、和田(2022)は新型コロナにより「趣味・習い事」「食事」「旅行」「地域・ボランティア活動」など、余暇活動や生きがいを感じる活動の実施頻度が特に大きく低下したとしている[9]。

このように、趣味の活動と外出頻度には関わりがあり、新型コロナ拡大による影響を受けていた。一方、上述した通り、新型コロナ拡大の影響を受けにくいのがICT利活用である。水野らは対面活動においても、ICTを利活用したことによって生じた人との関係の変化（関係が密になる等、深化する。関係が復活する・新たな友人ができる等、拡大する）が対面交流の頻度にも影響を与えていることを示している[10]。ただ、対面交流の頻度（外出の機会）と、趣味の頻度・ICT利活用の頻度の関係について、調査・分析した研究は少ない。本研究では、シニア層における対面交流の頻度が、趣味の頻度・ICT利活用の頻度によって増加するのかを焦点に分析を行った。

## 2. 調査概要

調査時期：2023年1月

調査対象：全国、60～79歳男女

調査方法：訪問留置調査

標本抽出法：QUOTA SAMPLING

性別（5歳刻み）・年齢・エリアで割付

1,350サンプル回収

分析対象はNAを除く1,299

## 3. 分析手法

目的変数を「対面交流をする頻度」

説明変数は「趣味の頻度」「インターネット利用時間」「年齢」「性別」として重回帰分析を実施する

## 4. 調査結果

### 4.1 対面交流の実施頻度（目的変数）

目的変数である「対面交流の実施頻度」については、2問「仲間・友達と旅行・趣味の集まり、もしくは外食などの交流」「家族・親戚と旅行・趣味の集まり、もしくは外食などの交流」をそれぞれ4件法（行っている、ときどきおこなう、たまに行う、行わない）で実査をおこなった（図1）。その結果を得点化（8点～2点）し、「活発」「中間」「非活発」の3群に分ける。その結果を図1に示す。年代差は少ないが、女性の方が活発な状況である。これを目的変数とした。

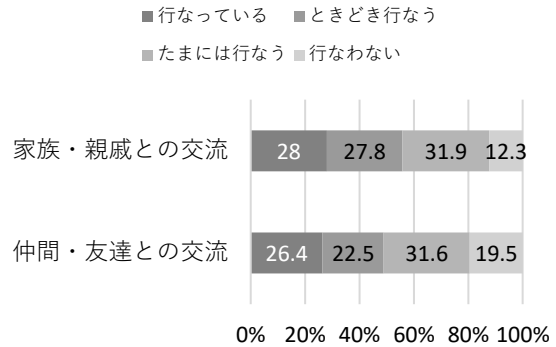


図1 対面交流

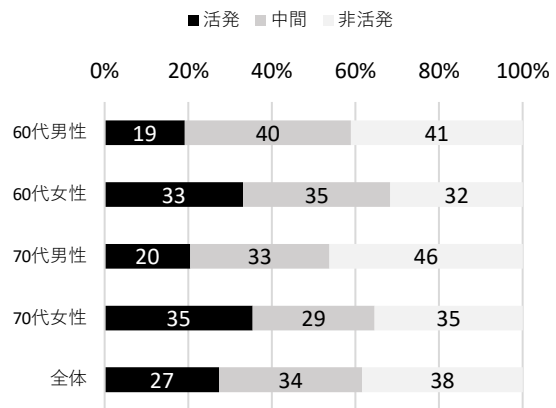


図2 対面交流をする頻度

### 4.2 趣味の実施頻度（説明変数）

趣味は表1の通り、21の事例を提示し、複数回答で聞いた。平均3.6の回答があり、個数の偏りは年代・性別で見られない。ただ、内容は年代・性別で差が見られた。60代は男女とも「旅行」が1位となり、男性は「スポーツ観戦」「インターネット」と続いた。「インターネット」は女性と比較し10ポイント以上高い。女性は「ガーデニング」「読書」と続いた。70代となると男性は「ウォーキング」が最も高い。女性は「ガーデニング」が最も高く、43.4%であった。年代問わず、男性は「ゲーム」や「競馬・競艇・競輪・パチンコ・宝くじ」、女性は「手芸」「料理」「グルメ」等が高い傾向が見られた。なお、趣味はないと答えた人は性別、年代問わず、7%前後と低い。

説明変数として採用した「趣味の実施頻度」の結果を図2で示す。33%がほぼ毎日と答え、週1回以上まで含めると、76%となる。年代差はほとんど見られない。つまり、60代と70代で就労率は差が見られるが、趣味の頻度については、仕事の影響をあまり受けていない（図4）。

|                   | 60代男性 | 60代女性 | 70代男性 | 70代女性 | 全体   |
|-------------------|-------|-------|-------|-------|------|
| 旅行                | 33.6  | 34.5  | 30.7  | 32.6  | 32.9 |
| 散歩・ウォーキング         | 28.1  | 27.4  | 37.9  | 37.2  | 32.7 |
| 庭いじり・ガーデニング・野菜作り  | 20.4  | 31.0  | 27.6  | 43.4  | 31.0 |
| 読書                | 21.9  | 28.3  | 22.9  | 28.6  | 25.6 |
| 自身が行なうスポーツ        | 28.4  | 20.5  | 25.7  | 22.1  | 24.1 |
| スポーツ観戦            | 31.5  | 14.6  | 33.2  | 14.0  | 22.9 |
| 音楽鑑賞              | 23.8  | 22.9  | 19.7  | 19.9  | 21.6 |
| 映画鑑賞              | 22.8  | 25.0  | 18.8  | 19.4  | 21.5 |
| 料理                | 10.2  | 21.4  | 12.2  | 28.0  | 18.4 |
| インターネット           | 29.0  | 14.9  | 19.7  | 7.0   | 17.3 |
| 手芸                | 0.9   | 25.6  | 0.9   | 26.7  | 14.1 |
| 学習・自己啓発           | 11.1  | 11.0  | 13.5  | 11.9  | 11.9 |
| 行楽・ドライブ           | 11.7  | 14.0  | 11.0  | 10.0  | 11.6 |
| ゲーム（囲碁・将棋含む）      | 14.2  | 10.7  | 14.7  | 6.7   | 11.4 |
| カラオケ・合唱           | 8.3   | 9.2   | 10.3  | 13.7  | 10.5 |
| グルメ               | 6.8   | 14.6  | 5.3   | 12.1  | 9.9  |
| 美術鑑賞              | 7.1   | 9.5   | 7.8   | 13.7  | 9.7  |
| 競馬・競艇・競輪・パチンコ・宝くじ | 14.2  | 3.9   | 20.4  | 1.6   | 9.6  |
| その他               | 8.3   | 6.8   | 7.2   | 5.9   | 7.0  |
| 登山・ハイキング          | 9.3   | 5.1   | 6.9   | 6.7   | 7.0  |
| 写真                | 9.9   | 5.4   | 8.5   | 3.5   | 6.7  |
| 趣味はない             | 7.7   | 8.3   | 7.5   | 6.5   | 7.5  |

表1 高齢者の趣味

図3 趣味の実施頻度

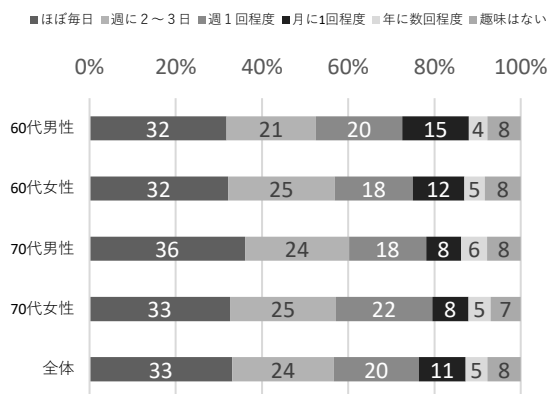
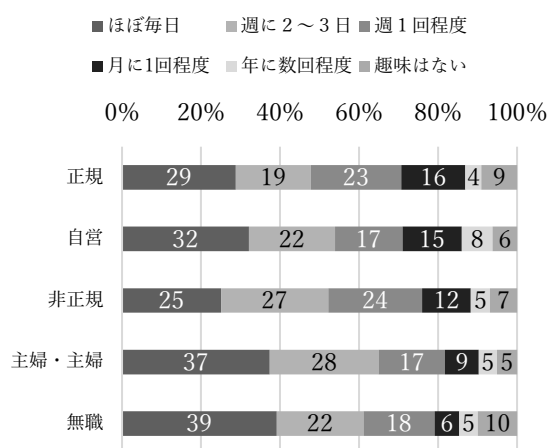


図4 趣味の実施頻度と職業

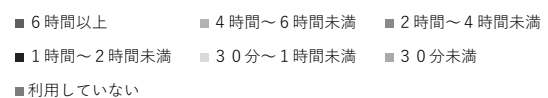


#### 4.3 インターネット利用時間（説明変数）

インターネット利用時間の結果を、図5に示す。

この結果を基にインターネット利用時間を計算すると60代男性は2.2時間、女性は1.6時間、70代男性は1.0時間、女性は0.9時間であった。いずれの年代も男性が長いが、スマホの利用時間はほぼ同じである。男性はパソコンを利用する時間が長いと、このような差が生じている[11]。さらに、水野ら(2023)[12]はインターネットの利用時間と最も関係が強い変数は「仕事でパソコンを使い始めた時期」とし、若い時期からパソコンを仕事で使っているか否かが、現在のネット利用時間に関連することを明らかにしている。

図5 インターネット利用時間



#### 4.4 対面交流頻度を目的変数とする重回帰分析

目的変数を「対面交流をする頻度」説明変数は「趣味の頻度」「インターネット利用時間」「年齢」「性別」とし、重回帰分析を実施した。その結果を表2、図解したものを図6に示す。

目的変数と説明変数間の標準回帰係数を見ると、「趣味の頻度」「インターネット利用時間」「性別」において有意な関係が見られた。また、説明変数間においても「趣味の頻度」と「インターネット利用時間」は有意な相関関係が確認できた。

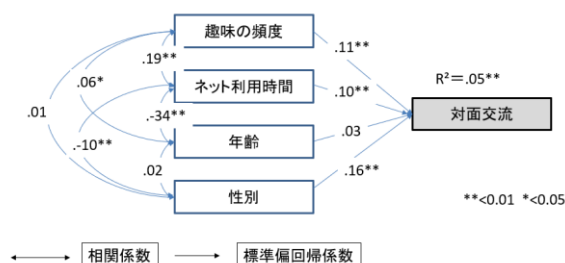
| 説明変数               | $\beta$ | r      |
|--------------------|---------|--------|
| 趣味の頻度              | 0.11**  | 0.13** |
| ネット利用時間            | 0.10**  | 0.10** |
| 年齢                 | 0.03    | 0.01   |
| 性別                 | 0.16**  | 0.16** |
| R <sup>2</sup>     | 0.05**  |        |
| Adj.R <sup>2</sup> | 0.05**  |        |
| N                  | 1,299   |        |

注)  $\beta$  : 標準偏回帰係数 r : 相関係数

\*\*p<.01 \*p<.05

表2 対面交流を説明変数とする重回帰分析

図6 対面交流を説明変数とする重回帰分析(標準偏回帰係数)



## 5. 考察

本研究の結果、「対面交流をする頻度」と「趣味の頻度」、「インターネット利用時間」の間には関係があることを確認できた。今回の調査では、趣味を行う際にインターネットをどれだけ活用しているかは、聞いていないが、関係性は見られたことから、趣味活動にインターネットを活用している場合があり、それが対面交流に結びついている可能性がある。

上述の通り、新型コロナウイルス感染拡大の影響は、趣味活動の中でもとりわけ外出を伴う活動であった。インターネットでの活動は、外出を促すだけでなく、新型コロナウイルス感染拡大のように、外出が規制を受けた時にも活動の継続につながる可能性を持っている。また、加齢や疾患により外出が困難になった時も、自宅また施設でインターネットを活用することにより活動の継続が可能なのではないか。そのような視点も含め、今後研究を継続していきたい。

## 参考文献

- 1) NTT ドコモ モバイル社会研究所:シニアのスマホ所有率 (<https://www.mobaken.jp/project/seniors/seniors20230406.html>,2023.07.01)(2023)
- 2) 桂瑠以・橋本和幸(2019) 高齢者のインターネット使用が社会的活動及び精神的健康に及ぼす影響の検討『情報メディア研究 第18巻 第1号』,1-12
- 3) 福定城・斉藤雅茂・近藤克則・斎藤民(2022) 対面・非対面交流のタイプ別にみた高齢者の主観的健康: JAGES2019横断研究『厚生指標 2022.10』,1-9
- 4) 水野一成・近藤勢津子・吉良文夫(2022) ICTサービスの利用によって生じた「情報格差」が及ぼした「生活の変化」について: 年代間、シニア間の差を定量調査で分析『第17回日本応用老年学会大会』
- 5) 岡本 明・岡田 進一・白澤 政和(2006) 大都市居住高齢者の社会活動に関連する要因 身体、心理、社会・環境的要因から『日本公衆衛生雑誌/53巻(2006)7号』
- 6) Takumi Abe, Satoshi Seino, Yui Tomine, Mariko Nishi, Toshiki Hata, Shoji Shinkai, Yoshinori Fujiwara, Akihiko Kitamura(2022) Identifying the specific associations between participation in social activities and healthy lifestyle behaviours in older adults『Maturitas Volume 155, January 2022』 24-31
- 7) 藤田 幸司, 藤原 佳典, 熊谷 修, 渡辺 修一郎, 吉田 祐子, 本橋 豊, 新開 省二(2004) 地域在宅高齢者の外出頻度別にみた身体・心理・社会的特徴『日本公衆衛生雑誌 51巻3号』 168-180
- 8) 古田 葉菜・佐々木 八千代・野田 さおり・白井 みどり(2022) 新型コロナウイルス感染症の流行による地域在住高齢者の生活状況の変化の実態『日本健康医学会雑誌 31(2)』 235-243
- 9) 和田 崇(2022) COVID-19 パンデミックによる高齢者のスポーツ活動の変化『日本地理学会発表要旨集 2022a』 18
- 10) 水野一成・近藤勢津子・吉良文夫(2023)シニア層における人との交流に ICT 利用が与える影響『第 65 回日本老年社会科学学会大会』
- 11) NTT ドコモ モバイル社会研究所:シニアの ICT 利用時間 (<https://www.mobaken.jp/project/seniors/seniors20230615.html>,2023.07.07)(2023)
- 12) 水野一成・鮑戸弘(2023) ICT 機器別に見る利用が高いシニアの特性分析 ― ICT 利用のライフスタイル研究―『日本行動計量学会第 51 回大会』 (予定)